

令和6年11月8日

相生市議会議長 様

会 派 名 輝相会

代表者名 角石 茂美

出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏 名	角石茂美、池田勲、宮艸真木、土井本子、三浦隆利、中野有彦 森下高明、今井大	
日 程	令和6年11月5日から令和6年11月7日まで 3日間	
月 日	視察、研修、要請・陳情 活動、会議先	視察、研修、要請・陳情活動、会議項目
11・5	宮城県石巻市	市内視察（ボランティアガイド）
11・6	宮城県南三陸町	震災復興について
11・7	岩手県陸前高田市	震災復興について

旅費（8名分）	負担金（ 名分）	合 計（ 8名分）
768,200 円	0円	768,200円



視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

○宮城県石巻市

死 者 3, 187名
不明者 415名
建 物 56, 708棟
人 口 2010年 163, 216名
2020年 141, 391名

・ボランティアガイドにお願いし、震災遺構を見学。8.6m以上の津波で火災が発生した門脇小学校の震災遺構を見学し、地震の恐ろしさを体験しました。

・川・海の堤防はかさ上げされ、内面はブロックで施工し、草も生えないようにされていました。

・被災された場所は国・県の施設として石巻南浜津波復興祈念公園が建設され、公園内には、みやぎ東日本大震災津波伝承館や震災遺構門脇小学校があり、津波の記憶と教訓を伝え継ぐ公園となっています。

【所感】

震災を体験されたガイドによる説明であったため、津波によって失われた地域と住民の体験を通じ、日常の尊さや命の重みを再確認する時間となりました。

語り継ぐことの大切さを痛感し、復興の場に実際に立ち、感じた教訓を機会あるごとに市民のみなさんや市の関係者等に伝えていく重要性を痛感しました。

○宮城県南三陸町

死 者 620名
不 明 者 211名
人的被害者 831名

・東日本大震災からの創造的復興について

この町は川・海の堤防、被災地を10mかさ上げをし、今後、津波が来たときは被害が出ないよう住宅地や施設は高台に移転した町で今後は安全・安心な町になっていました。

・隣接の山の高さを半分ほどまで削り、後は住宅が半分程度建っていました。土の搬入はベルトコンベヤを設置し10mのかさ上げが完成したところです。

・この町は大きいところで約70cmの地盤沈下が発生し、6mの防波堤が

根こそぎ倒壊した町で、10mのかさ上げを決断したとのことです。

・“創造的復興の一丁目一番地” 基本原則” なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に”

1896年の明治三陸津波、1960年のチリ地震、そして2011年の東日本大震災、町ではこの災害を教訓に「もう二度と津波で命や財産を失わない」まちづくりに取り組んだ結果、高台移転の実施を決定。

震災復興計画

住まいの再建

災害公営住宅 8団地738戸（入居率95%）

防災集団移転事業 28団地827区画（空き区画41区画）

公営施設の再建

役場庁舎

（H24（2012）年4月）→本設庁舎（H29（2017）年9月）

医療施設

公立 2診療所（H24（2012）年4月）

公立志津川病院（H24（2012）年6月から38床）

南三陸病院・総合ケアセンター（H27（2015）年12月から90床）

なりわいを取り戻す（商工・観光）

南三陸さんさん商店街（本設）オープン（H29（2017）年3月）

R4（2022）年8、300万人突破（年間平均約60万人）

【所感】

ライフラインの復興に、電気80日、水道143日と多くの日数を要したとのことで、本市においても災害時の備えを十分に検討しておく必要を再認識した。

住まいは高台とするまちづくりのため、震災前に生活をされていた低い土地の地域は、居住地域としての整備はされていない。地域づくりとしては困難な点も感じられたが、震災から学ばれた新たな町の姿であるため、学ぶべき点も多い。今後も更なる復興を見守り、参考とさせていただきたい。

○岩手県陸前高田市

死者 1,559名

不明者 202名

家屋被害 8,035世帯

震災復興計画（H23（2011）年12月策定）

震災復興実施計画（H27（2015）年3月策定）

構想の目標期間（H23（2011）年度からH30（2018）年度）

復興事業は、事業費ベースで約87%（R元（2019）年度末）が完了。復興計画期間内では完了に至らない一部の事業については「陸前高田市まちづくり総合計画」（R元（2019）年からR10（2029）年）に引継ぎ実施し、R4（2022）年度末で完了。

浸水区域は高田松原津波復興祈念公園が整備され、公園内には国営追悼・祈念施設、東日本大震災伝承館いわて、道の駅 高田松原（2019.9完成）また、高田松原運動公園（2020.9完成）などがありR3（2022）年12月に祈念公園全体が完成。

岩手県は海岸側に土盛の防波堤を作り川には大きな水門を造る工法で川土手は手を入れていない。ここも低い所はコンベヤを設置してかさ上げを10mくらい行っている。

ボランティアガイドの案内で保存されている中学校を見学。防波堤、一本松（造成）、追悼・祈念施設、津波伝承館、高田松原の復元を視察し、運動公園も回りにあり、立派に復元されている。市庁舎においても7階建ての立派な物ができている。

岩手県の代表とされる東日本大震災の国営追悼・記念施設ができていた。

【所感】

陸前高田市は、東日本大震災で市役所が全壊し、職員111人が犠牲となった。被災経験を踏まえ、新市庁舎はBCP対応で作られており、ライフライン対応の充実など、工夫が施されている。

当市もいずれ本庁舎を建て替えなければならない時期がくる。災害時には職員の安全と業務の継続が必要条件となり、市民にとっても、災害時にの拠所となるべく安全安心かつ機能的なものでなければならない。本庁舎建築の際には、災害に遭われた市の知恵を無駄にすることなく参考にしていける必要がある。

また、農林水産物の復興に関しては、震災前と同程度にまで復興しつつあるとのことだが、高齢化等による働き手不足、賃金の高騰など全国的な問題もあるため、事業実施のための国・県等の補助メニューを活用する点は、本市でも基本であると感じた。

（資料等添付のこと）